総務省統計局

米への支出

－家計調査（二人以上の世帯）結果より－

10月になり、新米が出回る季節となりました。そこで今月は、日本人の主食である米と、米に関連する品目の支出について、家計調査結果からみてみましょう。

減少傾向にある米への支出

食料全体及び米について、１世帯当たりの支出金額を価格の変動分を除き平成12年を100とした実質金額指数でみると、食料全体はわずかな減少傾向にあるなか、米はより大きく減少していることが分かります。平成19年では、12年のおよそ８割程度まで落ち込んでいます（図１）。

平成19年８月以降は米の購入数量が増加傾向

次に、平成17年１月～20年７月の米の１世帯当たり月別購入数量（注１）と消費者物価指数の推移をみると、19年８月以降、購入数量が増加傾向にあることが分かります。これは、生活必需品の価格が上昇する中、価格が上昇していない米は、他の品目に比べて値ごろ感があることなどから、購入数量が増加したと考えられます（図２）。

高齢の世帯ほど米への支出割合が高い

最後に、穀類全体への１世帯当たり年間支出金額に占める、米、パン、めん類及び他の穀類（注３）の割合を世帯主の年齢階級別にみると、世帯主の年齢が高くなるほど米の割合が多くなっています。

一方、パンやめん類の割合は、世帯主の年齢が低いほど多くなる傾向がみられます（図３）。

このように、家計調査の結果をみることで、世帯の消費の構造や変化を把握することができます。

（注１）当月を含めた過去12か月間の平均値である。

（注２）支出品目のうち生活必需品に分類されるもの。

（注３）「他の穀類」には、小麦粉やもちなどが含まれる。

図１　食料及び米の実質金額指数の推移（平成12年～19年）

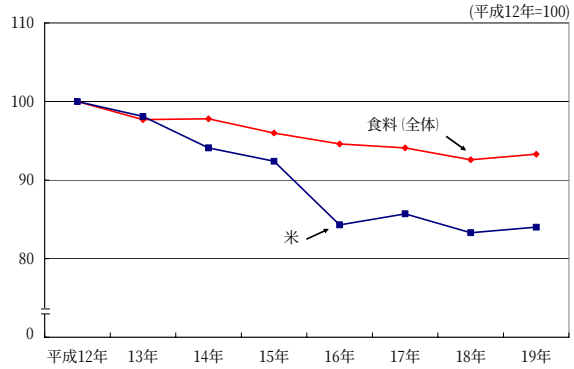


図２　米の月別購入数量と消費者物価指数の推移（平成17年１月～20年７月）

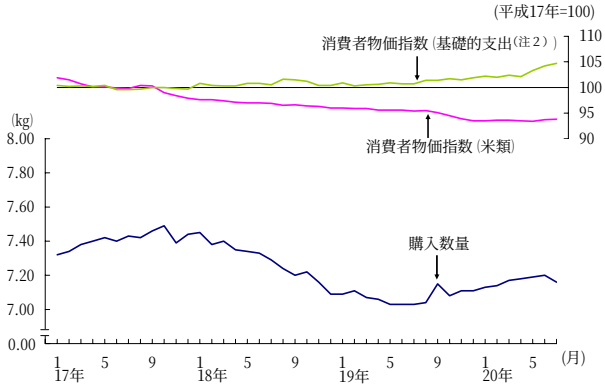
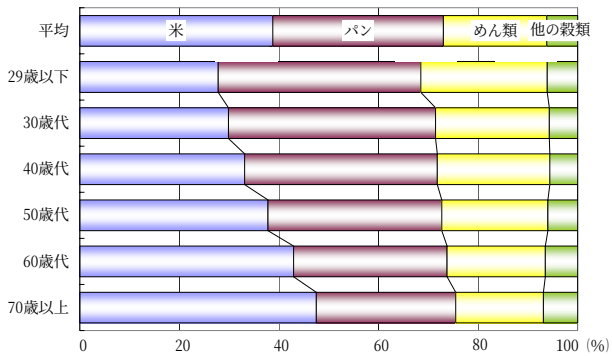


図３　世帯主の年齢階級別穀類の年間支出金額の構成比（平成19年）



「家計調査通信416号（平成20年10月15日発行）」より